



ヒブワクチン

インフルエンザ菌b型 (Hib) ワクチン

B-01

👤 どんな病気ですか？

ヒブ感染症はインフルエンザ菌b型による感染症です。インフルエンザ菌b型は、正式な菌の名前を *Haemophilus influenzae type b* と言い、その頭文字をとってHib (ヒブ) と呼ばれます。

「インフルエンザ菌」は細菌で、インフルエンザを起こす「インフルエンザウイルス」と混同されることがありますが、全く別のものです。



主な病気

重いヒブ感染症は、侵襲性(しんしゅうせい)感染症と呼ばれ、通常、菌のいない部位から細菌が見つかることで診断します。

細菌性髄膜炎 (さいきんせいずいまくえん)

脳や脊髄(せきずい)をつつむ髄膜(ずいまく)に細菌が入りこみ、炎症を起こし、発熱、嘔吐、頭痛、けいれんなどの症状を起こす病気です。進行すると意識が低下し、抗菌薬による治療を適切に行っても、難聴や四肢の麻痺などの後遺症を残したり、命を落とすこともある重い病気です。

急性喉頭蓋炎 (きゅうせいこうとうがいえん)

喉頭蓋(こうとうがい)とは、食物を飲み込むとき、のどの入り口をふさいで気管に入らないような働きをするふたのことです。

喉頭蓋にヒブが感染し、はれることにより、急に熱がでて、つばが飲み込めない、呼吸が苦しいなどの症状が現れます。病気が進むと、急に空気の通り道をふさいでしまい、死亡することもある重い病気です。

そのほか

菌血症(きんけつしょう)

…血液の中に細菌が見つかる状態。

化膿性関節炎(かのうせいかんせつえん)

…関節の中に細菌が入り、膿がたまる病気。血液にのって細菌が関節に運ばれることが多いです。

👤 ワクチンをいつ、何回接種しますか？

ヒブワクチンの定期接種対象年齢は、生後2か月から5歳未満です。

ヒブワクチンは、生後2か月を過ぎたらすみやかに接種を始めます。接種回数は、計4回です。初回免疫として通常3回、いずれも27日以上の間隔(標準的には27～56日:医師が必要と認めた場合は20日も可)をあけます。追加免疫は、通常、初回免疫後7か月以上の間隔(標準的には初回免疫後7か月以上13か月未満)をおいて、1歳になったらすぐに1回接種します。

標準スケジュール

- 生後2か月～6か月に始める場合 接種回数 **4回**
 - 1回目 生後2か月～6か月
 - 2回目 前回から4～8週あけて
 - 3回目 前回から4～8週あけて
 - 4回目 3回目からおおむね1年後の1歳早期に

なお、定期接種の対象年齢・期間に、病気などでヒブワクチンを受けられなかった場合、その特別な事情がなくなった日から数えて2年を経過する日までの間は、定期接種として接種できます。ただし、ヒブワクチンは年齢の上限があり、10歳までの間となっています。

標準スケジュールより遅れた場合

- 生後7か月～11か月に始める場合 接種回数 **3回**
 - 1回目 生後7か月～11か月
 - 2回目 前回から4～8週あけて
 - 3回目 2回目からおおむね1年後

初回接種の開始が遅れ、生後7か月以上1歳未満になってしまった場合には、初回免疫を2回、追加免疫を1回行います。

- 満1歳～4歳に始める場合 接種回数 **1回**

初回接種の開始が遅れ、1歳以上になってしまった場合には、1回だけの接種を行います。

🐣 ワクチンの効果

ワクチン接種により **重症なヒブ感染症をほぼ100%予防** できます。

ヒブワクチンは、1回の接種では十分な免疫を作ることにはできず、乳児期に3回接種することで十分な免疫を作ることができます。それでもその免疫は時間が経つと徐々に下がるので、**1歳になってからもう1回接種する** ことで、免疫がより長く続きます。

全国10の道と県で、ヒブワクチン導入前から小児のヒブによる侵襲性感染症の全ての患者数を調査をしています。2011年から国の公費助成が始まり、2013年から定期接種のワクチンとなり、接種率が高まりました。そして、**2014年以降、規定回数のヒブワクチンを接種した小児では、重症なヒブ感染症は、1**

例も報告がありません。ヒブワクチンを多くの子どもたちに接種することで、ヒブが鼻の中にくっつくことを減らします。またワクチンを受けていない人の感染症も予防する効果が期待できるワクチンです。

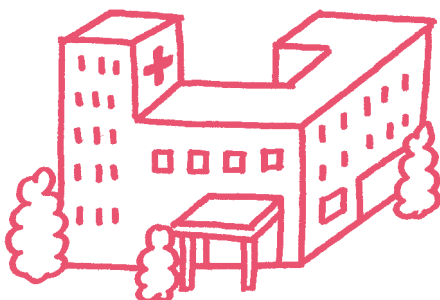


🐣 ワクチンの副反応

ヒブワクチンは、約30年以上にわたり、世界中で使用されている安全性の高いワクチンです。

ヒブワクチンによる全身性の副反応は軽度であり、局所反応として接種した場所の赤み、痛み、はれなどが見られます。それらの多くは24時間以内によくなくなります。

国内でのヒブワクチンが市販された後の副反応の調査でもその高い安全性が確認されています。



🐣 どのように感染しますか？

ヒブは人ののどや鼻の奥などにすみついている身近な細菌のひとつです。主に咳やくしゃみなどで、近くにいる人が吸い込むことで感染します。感染すると、一部の人ではヒブが血液中に入り、全身に広がります。脳を包んでいる髄膜（ずいまく）に感染すると髄膜炎、のどの奥に感染すると喉頭蓋炎（こうとうがいえん）などの重症な感染症をひき起こします。



接触感染

皮膚やおもちゃなどに付いた病原体に触れて吸い込むことで感染



飛沫感染

咳やくしゃみで飛び散った病原体を吸い込んで感染

【五種混合ワクチン】

ヒブの免疫は五種混合ワクチンでもつけることができます。接種スケジュールなど詳細は「(B-05)五種混合ワクチン」を参照してください。

♥️ ワクチンが接種できない人は誰ですか？



接種を受けることができない、いわゆる接種禁忌の人

- 明らかな発熱を認めた場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ワクチンの成分または破傷風トキソイドによってアナフィラキシー（重いアレルギー反応）を起こしたことがある場合
- 上記以外で予防接種を行うことが不適当な場合



接種を受けるにあたって注意が必要な人 接種前にかかりつけ医によく相談しましょう

- 心臓・血管・腎臓・肝臓・血液に持病がある人、発育に障害がある人
- これまでの予防接種で接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を認めた人
- 過去にけいれんの既往がある人
- 過去に免疫不全の診断がなされている人
- 先天性免疫不全症の病気をもっている近親者がいる人
- ワクチンの成分または破傷風トキソイドに対してアレルギー反応を起こすおそれのある人